

## 第22回

## 第3章 現代を生きる人間の倫理

## 社会変革の思想

## 今回学ぶこと

近代の市民社会がどのような問題をかかえていたのかを考え、その問題を解決しようとした諸思想の特徴を理解して、社会変革の思想について思索を深める。その際、20世紀の世界に大きな影響を与えたマルクスの社会主義思想について理解し、労働者の解放ということについて考える。さらに、実証主義と進化論の思想、アメリカの哲学であるプラグマティズムの思想について理解を深める。



講師

小林和久

## ■ ■ 社会主義思想の形成 ■ ■

社会主義思想とは、資本主義社会を根本から変えて、財産を社会全体の所有にして、社会全体のために財産や生産を管理する社会をつくり、不平等の克服をめざす思想である。19世紀のヨーロッパでは、産業革命が進展し、資本主義社会が確立されていくが、労働者の貧困などの社会問題が深刻になり、資本家と労働者の対立も激しくなった。そのような中、ドイツの哲学者・経済学者であるマルクスは、労働者の解放のために、資本主義社会を根本から変えて、社会主義社会に移行する必要がある、それは「唯物史観」という考え方に基づいて実現されると考えた。この考えによれば、人間の社会は、生産力と生産関係（生産における人間関係）を土台にして、その上に法律や政治、道徳などが上部構造としてつくられている。だが、生産力は上昇していくのに対して、生産関係は固定化される傾向があるので、両者はやがて矛盾し、階級間の争いを生み、生産関係の変革をもたらす。こうして資本主義から社会主義へと移行したときに、労働者の真の解放は実現される。マルクスによれば、このような社会の変革は歴史の必然であり、それを行うのが労働者の使命だと考えられた。

マルクスの社会主義思想は世界に大きな影響を与え、20世紀には社会主義の国が次々と生まれたが、これらの国々は経済の行き詰まりなどによって、1980年代の末から変革が相次ぎ、現在では、社会主義と言われる国々でも、市場経済を導入している国が多数存在している。すでに19世紀末頃から、マルクスの革命論を否定し、議会活動によって社会保障の充実や労働者の生活改善を目指す思想も唱えられていた。ドイツのベルンシュタインによる社会民主主義の考え方などがそれにあたる。

## ■ ■ 実証主義と進化論 ■ ■

19世紀には今日の学問につながる新しい考え方が数多く説かれていくが、その一つに実証主義がある。実証主義とは、経験できる事実にもとづいて実際に検証できる知識だけを本当の知識とする思想で、今日の経済学など、社会科学の基本となる考え方である。実証主義を提唱したフランスのコントは、フランス革命からの混乱が続いていた当時の社会を的確に分析して改革しようと考え、社会学を確立した。また19世紀半ばには、進化論も広まっていく。イギリスのダーウィンは『種の起源』を記して、生物の仕組みはそれぞれの種が少しずつ環境に適応してきた結果だという、生物の進化論を説いた。

## ■ ■ プラグマティズム ～アメリカの思想～ ■ ■

プラグマティズムとは、19世紀後半から20世紀にかけてアメリカで広まった思想であり、「実用主義」とも訳される。人間の生活に実際に役立つことを重んじて、さまざまな問題を解決していこうとする思想であり、アメリカの哲学者パーズによって提唱された。パーズの思想を広めたジェイムズは、行為の善悪などの問題は、その行為が実際の生活に役立つかどうか（有用であるかどうか）で決まると考え、「真理の有用性」を説いた。

### ◇ コラム ◇

20世紀の世界に大きな影響を与えたマルクスですが、一人の人間としてみると、人づきあいはいまもなく、お金の管理も苦手だったそうです。

彼の父親は弁護士で裕福だったそうですが、マルクス自身は大学生のころから金遣いが荒く、それを嘆いた父親の手紙が残っています。どんなお金持ちの子どもでも1年に500ターレル（ターラーともいう。当時の通貨単位）も使わないのに、おまえは700ターレルでもまだ足りないというのか……という内容です。当時のベルリン市会議員の年俸が800ターレルだったそうですから、かなりの浪費家だったようです。父親の死後は多額の遺産を相続したものの、定職もなく図書館にこもって勉強・研究の日々……それでも浪費癖は直らず生活に困ることになってしまいます。

そんなマルクスを助けたのが友人のエンゲルスで、エンゲルスはマルクスの思想をわかりやすく紹介したりもします。二人の共著『共産党宣言』は、世界の社会主義運動に強い影響力をもちました。